

「21世紀COEプログラム」（平成15年度採択）中間評価結果			
機 関 名	お茶の水女子大学	拠点番号	J 0 7
申請分野	学際・複合・新領域		
拠点プログラム名称 （英訳名）	ジェンダー研究のフロンティア ―〈女〉〈家族〉〈地域〉〈国家〉のグローバルな再構築 ―（Frontiers of Gender Studies）		
研究分野及びキーワード	＜研究分野：ジェンダー＞（人間開発）（法・政策）（経済・労働）（医療・身体）（思想・表象）		
専攻等名	ジェンダー研究センター、人間発達科学専攻、比較社会文化学専攻、国際日本学専攻、ジェンダー学際研究専攻		
事業推進担当者	（拠点リーダー名） 戒能 民江 教授 他 15名		

◇拠点形成の目的、必要性・重要性等：大学からの報告書（平成17年4月現在）を抜粋

＜本拠点がカバーする学問分野について＞ 本拠点では、男女共同参画社会形成に向け、ジェンダーを触媒として、より高次の「人間開発」をめざし、「法・政策・開発」「経済・労働」「医療・身体」「思想・表象」の各パースペクティブを連動させて追求することにより＜女＞＜家族＞＜地域＞＜国家＞のグローバルな再構築を行う。
＜本拠点の目的＞ 1)現代世界が抱える諸課題と要請に応えるジェンダー研究のフロンティアを切り拓くこと、2)ジェンダー視点に立って既存の学問領域を横断し、多様かつ複層的な見地から学問の再編成を行うこと、3)アジアの歴史的体験・思想体系を参照し、間アジア的対話を通じたグローバルなジェンダー研究をアジアから発信すること、4)ジェンダー研究センターおよび大学院との有機的な連携と、国内外の研究機関との緊密な学術交流を通じて、アジアにおけるジェンダー学術ネットワークを形成すること。
＜計画：当初目的に対する進捗状況等＞ 本拠点では、4つのプロジェクト別研究「ジェンダー公正と多文化共生に基づく公共政策と男女共同参画社会形成の諸条件の解明」「少子化とエコノミーの相互関係の解明と政策作用についての研究」「医療・科学技術の進展と『身体・生殖・性別』の再構成」「社会の液状化とグローバル化に即応したジェンダー理論の構築と文化表象の解明」と、3つの間プロジェクト研究「家族・仕事・家計国際比較調査」「文化表象データベースの構築」「連携型研究アジア認識とジェンダー」を着実に推進した。第1回全体シンポジウムを開催して本拠点の有機的連携と統合をはかることで、今後の研究の展望をひらく問題提起を行った。他方、多様な手法を用いて若手研究者の育成に努めた。
＜本拠点の特色＞ 国立大学法人で唯一の国際的なジェンダー研究センターと大学院ジェンダー論関連専攻とを有機的につなげ、より広範な学際的ジェンダー研究を行うことに特色がある。また、それは、日本の他の拠点大学や研究機関にはない国際的なジェンダー学術ネットワークを恒常的に構築している特徴を有する。さらに本拠点は、西洋中心のジェンダー研究教育に偏らず、多文化的、多民族的な視点で、アジアにおける近代化と経済発展の先発国としての経験を活かしながら、先取的ジェンダー研究をアジアから発信していくことができる。
＜本拠点のCOEとしての重要性・発展性＞ 日本の高等教育機関におけるジェンダー研究教育はきわめて立ち遅れている。本拠点は、国内外と共同してジェンダー研究教育の成果をあげ、自然科学をも含めて、学術における女性の躍進に寄与してきた。平成17年度から大学院博士後期課程への「ジェンダー学際研究専攻」の新設等、ジェンダー研究教育に組織的・包括的に取り組んでいる。本拠点の実績と資源を基盤に、21世紀に求められる男女共同参画社会の実現に向けた研究教育の拠点として大きく発展しうる。
＜本プログラム終了後に期待される研究・教育の成果＞ 1) アジアにおけるジェンダー学術研究ネットワークの形成。2) ジェンダー公正・多文化・多民族共生・人間開発を視野に入れた公共政策モデルの提示と、政策ネットワークの形成。3) アジア初のジェンダー・パネル調査成果の発信と、ジェンダー平等指標の開発。4) 医療・身体・科学技術に関するジェンダー・カリキュラムの作成。5) 日本初のジェンダーに関する文化表象データベースの構築。6) 学問的知見と社会的視座を有した研究人材の創出と、各分野の専門的実務家の再教育。7) 男女共同参画社会形成への貢献。
＜本拠点における学術的・社会的意義等＞ アジアを中心とした現代世界の諸課題に対して、調査結果の分析に基づく具体的提言を行うとともに、その基盤となる新たなジェンダー概念と理論を提供することで、学問の再構築を行うことにより、行政機関や専門家、NGO/NPOなどの男女共同参画社会形成への営為が確実に推進される。アジアにおけるジェンダー研究ネットワーク形成の拠点となり、グローバルな水準で情報発信を行うことは、アジアにおける「ジェンダーの主流化」の実現に貢献する。

◇21世紀COEプログラム委員会における評価

（総括評価） 当初目的を達成するには、助言等を考慮し、一層の努力が必要と判断される。
（コメント） ジェンダー研究のフロンティアを切り拓くという現代的な課題に応える学術共同の拠点としてCOEプログラムを展開し、成果を上げている点が評価できる。 人材育成については、ジェンダー研究センターを中心に、事業推進者の所属する既存の専攻学科を利用し、数多くの若手研究者の教育を実施してきている。予算面でも若手育成を重視し、機構面において、2005年にジェンダー学際研究専攻を新設、2006年にジェンダー社会科学専攻設立を予定しており、教育面での学際・複合・新領域の創設に大きく努力している。 有機的連携については、研究・教育面で、若手研究者に重点を置いた協力関係を構築し、日本を拠点に国際的な、ことにアジアでのネットワークの形成に努めている。今後は、この努力を継続するとともに、国内でもジェンダー研究に携わる機関・人材・情報面でのリソースをつなぐよう、充実したネットワークの形成をさらに推進されたい。 研究活動については、「再生産領域とグローバル化」「科学・医療・技術と身体のパリティクス」「暴力とジェンダー配置」という3つのテーマを柱に、4つのプロジェクトを展開しており、それぞれの分野について、専門的な研究を蓄積している点が評価できる。ただし、個々の専門分野に分散することなく、当初の目的である学際・複合・新領域を打ち立てるために、共通の理論的な枠組みや新しい分析概念を提起するよう、総仕上げの共同作業を一層の努力をもって進めていただきたい。